

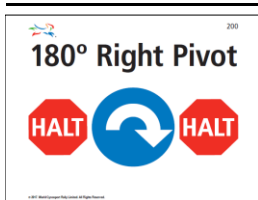
WCRLラリーオビディエンス エクササイズ内容

Level 2

レベル2のコースは、コースデザインガイドラインに従って、それぞれこの文書に記されるエクササイズとレベル1のエクササイズによって構成される。レベル2のボーナスエクササイズは、レベル3のエクササイズから選択される。

【止まって終わるエクササイズ】

止まって終わるエクササイズ（Stationary Exercises）は、静止した姿勢で終わるエクササイズである。エクササイズ内には動きのある要素も含まれる。



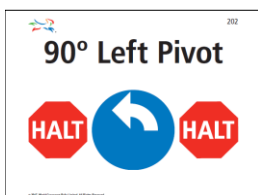
200. 停止－180° 回れ右－停止

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。
ハンドラーは犬にヒーリングの指示を出し、その場で180° 回れ右を行う。
犬は、ハンドラーの軸回転に合わせて、そろって動き出す。
方向転換完了とともに、ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。

主要要素：ハンドラーの回れ右に伴うヒーリング

注釈：

- ・ハンドラーの回転が完了した時点で犬がまだ初めの停止でとどまっていた場合は、主要要素に準じない
- ・犬が軸回転する必要はない



202. 停止－90° 左向け左－停止

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。
ハンドラーは犬にヒーリングの指示を出し、その場で90° 左向け左を行う。
犬は、ハンドラーの軸回転に合わせて、そろって動き出す。
方向転換完了とともに、ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。

主要要素：ハンドラーの左向け左に伴うヒーリング

注釈：

- ・ハンドラーの回転が完了した時点で犬がまだ初めの停止でとどまっていた場合は、主要要素に準じない
- ・犬が軸回転する必要はない



204. 停止－右にサイドステップ－停止

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。
ハンドラーは犬にヒーリングの指示を出し、進行方向を向いたまま右にサイドステップを行う。
犬は、ハンドラーの一步右にサイドステップに合わせて、そろって動く。
犬はヒールポジションで座る。

主要要素：サイドステップ後ヒールポジションで座る

注釈：

- ・ハンドラーは、サイドステップの際に後退してはならない
- ・サイドステップは、ハンドラーの肩幅の約2倍（約45cm～60cm）とする
- ・横に動く際に犬がサイドステップする必要はないが、ハンドラーの動き出しに合わせて動き出すこと



206 A/B. 停止—犬から離れる／ヒールポジションに呼び戻す

- A.
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。
 犬は、ハンドラーにヒールポジションへと呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
 ハンドラーは進行方向を向いたまま停止する。
 振り返ることなく、ハンドラーは犬をヒールポジションに来るよう呼び。ハンドラーの肩は、犬が座るまで進行方向に対してまっすぐ向けておく。
 犬はヒールポジションに来て座る。

- 主要要素：**
 A.その場で待つ
 B.ヒールポジションに来る

- 注釈：**
 ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約3mに、同じ向きに置かれる
 ・ハンドラーは、犬を呼んで座らせる際に多少頭を振り返らせてもよい



208 A/B. 停止—右斜めに犬から離れる／角度のある呼び戻し—ヒールポジションに戻す

- A.
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは犬を待たせ、約30°右方向に置かれた2枚目のサインまで進む。
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
 ハンドラーは犬に対して平行になるよう振り返って停止する（犬の方を向くのではない）。
 ハンドラーは、正面に来て座るよう犬を呼び。
 犬はハンドラーの正面に来て座る。
 ハンドラーは犬を、左右どちらかからヒールポジションに戻す（ハンドラーの選択）。
 犬はハンドラーの指示により、ヒールポジションに戻って座る。

- 主要要素：**
 A.その場で待つ
 B.ハンドラーの正面に来る

- 注釈：**
 ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方に約3m、右方向に約1.8mの位置、すなわちこれまでの進行方向から約30°右方向に置かれる



210 A/B. 停止—左斜めに犬から離れる／角度のある呼び戻し—ヒールポジションに戻す

- A.
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは犬を待たせ、約30°左方向に置かれた2枚目のサインまで進む。
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
 ハンドラーは犬に対して平行になるよう振り返って停止する（犬の方を向くのではない）。
 ハンドラーは、正面に来て座るよう犬を呼び。
 犬はハンドラーの正面に来て座る。
 ハンドラーは犬を、左右どちらかからヒールポジションに戻す（ハンドラーの選択）。
 犬はハンドラーの指示により、ヒールポジションに戻って座る。

- 主要要素：**
 A.その場で待つ
 B.ハンドラーの正面に来る

- 注釈：**
 ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方に約3m、左方向に約1.8mの位置、すなわちこれまでの進行方向から約30°左方向に置かれる



212 A/B. 停止—犬から離れる／振り返って呼び戻し—右側からヒールポジションに戻る

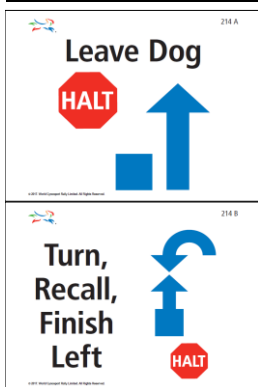
- A.
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
 ハンドラーは犬と対面するよう振り返って停止する。
 ハンドラーは、正面に来て座るよう犬を呼び。
 犬はハンドラーの正面に来て座る。
 ハンドラーは犬に、右側から後ろを回ってヒールポジションに戻るよう指示する。
 犬は上記の通りにヒールポジションに戻って座る。

主要要素：

- A.その場で待つ
 B.右側から後ろを回ってヒールポジションに戻る

注釈：

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約3m～4.8mに同じ向きに置かれる



214 A/B. 停止—犬から離れる／振り返って呼び戻し—左側からヒールポジションに戻る

- A.
 ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで進む。
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
 ハンドラーは犬と対面するよう振り返って停止する。
 ハンドラーは、正面に来て座るよう犬を呼び。
 犬はハンドラーの正面に来て座る。
 ハンドラーは犬に、左側で回り込んでヒールポジションに戻るよう指示する。
 犬は上記の通りにヒールポジションに戻って座る。

主要要素：

- A.その場で待つ
 B.左側で回り込んでヒールポジションに戻る

注釈：

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約3m～4.8mに同じ向きに置かれる



216 A/B. 停止—犬から離れる／振り返る—ジャンプを経由して呼び戻し—正面でオスワリー—ヒールポジションに戻る

- A.
 ハンドラーは、犬をジャンプ台の中心に向けて犬とそろって停止し犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは犬を待たせ、ジャンプ台の反対側にある2枚目のサインまで進む。
 犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
 ハンドラーは犬と対面するよう振り返って停止する。
 ハンドラーは犬に、ジャンプを跳んで正面に来て座るよう指示する。
 犬は、バーを落としたり逃走したりすることなく、正しい方向からジャンプ台を通過する。
 犬はハンドラーの正面に来て座る。
 ハンドラーは犬を左右どちらかからヒールポジションに戻す（ハンドラーの選択）。
 犬はハンドラーの指示により、ヒールポジションに戻って座る。

主要要素：

- A.その場で待つ
 B.正しい方向からジャンプ台を通過する

注釈：

- ・1枚目のサインは、ジャンプ台から約2.4m～3.6m手前の、犬がジャンプ台の中心に位置できる場所に置かれる
- ・2枚目のサインは、ジャンプ台の向こう約3.6m～4.5mの、ジャンプ台の中心にハンドラーが位置できる場所に置かれる



218. 正面でオスワリーサイドステップ&左側からヒールポジションに戻す もしくは サイドステップ&右側からヒールポジションに戻す

ハンドラーは前進をやめて犬を正面に座らせる。
 犬はハンドラーの正面に来て座る。
 ハンドラーは、左か右のどちらか（ハンドラーの選択による）に、後退せずに明確に一步分サイドステップをする。と同時に犬に、ハンドラーの動きに合わせて再び正面で座るよう指示する。
 犬は、ハンドラーとそろって動き出し、正面で座る。
 ハンドラーは、サイドステップで移動した方向と同じ側から犬にヒールポジションに戻るよう指示する。
 -ハンドラーが左にサイドステップをした場合、左側で回り込んでヒールポジションに戻る
 -ハンドラーが右にサイドステップをした場合、右側から後ろを回ってヒールポジションに戻る
 犬はヒールポジションに戻って座る。

主要要素：ハンドラーの正面で座る（×2回）

注釈：
 ・ハンドラーは犬を正面に呼び込む際に、4歩まで後退してもよい（後退しなくともよい）
 ・サイドステップは、ハンドラーの肩幅の約2倍（約45cm～60cm）とする
 ・横に動く際に犬がサイドステップする必要はないが、ハンドラーの動き出しに合わせて動き出すこと

【止まらずに次に進むエクササイズ】

止まらずに次に進むエクササイズ（Moving Exercises）は、動きのある要素で終わるエクササイズである。エクササイズ内に1つ以上の静止する要素が含まれることもあるが、静止の姿勢では終わらない。



250. 停止—オスワリから180° 回れ右—前進

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは、犬にヒーリングの指示を出し、すぐに180° 回れ右を行う。
 犬は、ヒールポジションを維持しハンドラーの動きとそろって動く。

主要要素：座った状態から180° 回れ右



252. 停止—オスワリから180° 回れ左—前進

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは、犬にヒーリングの指示を出し、すぐに180° 回れ左をする。
 犬は、ヒールポジションを維持しハンドラーの動きとそろって動く。

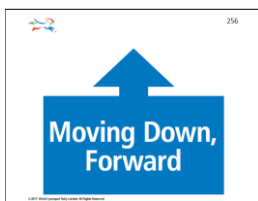
主要要素：座った状態から180° 回れ左



254. 停止—オスワリから加速で前進

ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
 犬はヒールポジションで座る。
 ハンドラーは、犬にヒーリングの指示を出し、すぐに停止から加速で動き出す。
 犬は、座っている状態から加速にかけて、ヒールポジションを維持しハンドラーの動きとそろって動く。
 ハンドラーと犬は、次のサインまでに通常に戻る。
 このエクササイズは、5.5m～6mの距離を使って行われる。

主要要素：座った状態から加速で前進する



256. 前進中のフセー前進

ヒールポジションのまま、ハンドラーは一時的に止まって犬を伏せさせる。犬は、座って静止することなく、ヒールポジションで伏せる。犬が伏せたらすぐに、ハンドラーと犬は、犬が伏せている状態から直接動き出すようにそろって前進する。

主要要素：座って静止することなく伏せる

注釈：

- ・ハンドラーには、犬を伏せさせる際にヒールポジションから外れて犬の前に回り込みんで指示し、指示後ヒールポジションに戻るといった選択肢もある。ハンドラーがヒールポジションに戻ったらすぐに、ハンドラーと犬は犬が伏せている状態からそろって前進する



258. 犬にハンドラーの周りを右回りさせて回れ左

犬とのヒーリングの前進から、犬をハンドラーの外周を時計回り（右回り）してヒールポジションに戻るよう回らせ、ハンドラーは反時計回りに方向転換（180°回れ左）する。ハンドラーと犬は、次のサインに向かってそろって前進し続ける。

主要要素：ハンドラーの反時計回りの方向転換に伴い犬はハンドラーの周りを時計回りに回る

注釈：

- ・ハンドラーは軸回転となる



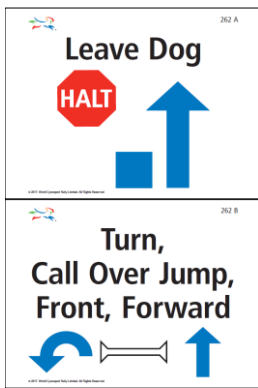
260. ジャンプへの送り出しーハンドラーは1m横を並走

ハンドラーは犬にジャンプを指示し、その後、ジャンプ台の右1mにあるハンドリングラインに沿って走る（加速の速度以下にならないこと）。ハンドラーは、ジャンプ脇を通過したのち、通常の色度に戻る。ハンドラーは、次のエクササイズに向かってヒーリングを続ける。犬は、バーを落としたり逃走したりすることなく、正しい方向からジャンプ台を通過する。犬は、ハンドラーが次のエクササイズを始める前にヒールポジションに戻る。

主要要素：ハンドラーと1mの幅をとって正しい方向からジャンプ台を通過する

注釈：

- ・ハンドリングラインは、ジャンプから離れておくべき幅1mの距離を示すために地面に引かれている。或いは、サインの設置位置で幅1mが示されている場合もある。ラインは通常、ジャンプ台に対して垂直に、ジャンプ前4.5m以内からジャンプ後1.5m以内で引かれている
- ・犬がハンドラーより速い場合、犬を呼び戻すことは減点にはならない



262 A/B. 停止—犬から離れる／振り返る—ジャンプを経由して呼び戻し—正面でオスワリー—ヒールポジションに戻して前進

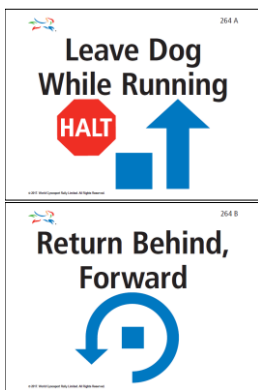
- A.
ハンドラーは、犬をジャンプ台の中心に向けて犬とそろって停止し犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。
ハンドラーは犬を待たせ、ジャンプ台の反対側にある2枚目のサインまで進む。
犬は、ハンドラーに呼ばれるまでその場で座って待つ。
- B.
ハンドラーは犬に正面を向くよう振り返って停止する。
ハンドラーは犬に、ジャンプを跳んで正面に来て座るよう指示する。
犬は、バーを落としたり逃走したりすることなく、正しい方向からジャンプ台を通過する。
犬はハンドラーの正面に来て座る。
ハンドラーは犬に、ヒールポジションに戻るよう指示し、犬がヒールポジションに到達すると同時に前進する。
犬は、ハンドラーの左側に直接か、もしくはハンドラーの後ろを回ってのどちらかでヒールポジションに向かい、座ることなくハンドラーとそろって前進する。

主要要素：

- A.その場で待つ
B.正しい方向からジャンプ台を通過する

注釈：

- ・1枚目のサインは、ジャンプ台から約2.4m～3.6m手前の、犬がジャンプ台の中心に位置できる場所に置かれる
- ・2枚目のサインは、ジャンプ台の向こう約3.6m～4.5mの、ジャンプ台の中心にハンドラーが位置できる場所に置かれる



264 A/B. 停止—走りながら犬から離れる／犬の後ろを回って戻る—前進

- A.
ハンドラーと犬はそろって停止し、犬を座らせる。
犬はヒールポジションで座る。
ハンドラーは犬を待たせ、2枚目のサインまで走ったら（加速の速度以下にならないこと）、普通に戻って方向転換し、普通に戻って犬の元へ戻る。
ハンドラーは、犬の左側から後ろを回ってヒールポジションに戻る。
犬は、ハンドラーがヒーリングを指示するまでその場で座って待つ。
- B.
ヒールポジションに戻ると同時に、ハンドラーは前進し続けながら犬にヒーリングを指示する。
犬は、ハンドラーとそろって前進する。

主要要素：

- A.その場で待つ
B.ハンドラーとともに前進する

注釈：

- ・2枚目のサインは、1枚目のサインから前方約3mに、同じ向きに置かれる
- ・サインBでハンドラーが戻った後、ハンドラーが2歩前進しても犬が動き出さなかった場合は、「ハンドラーとともに前進」（主要要素）したとはみなされない



266. 前進中のタッテ—犬のまわりを回る

- 前進しながら、ハンドラーは犬を立たせて待たせる。
犬はヒールポジションで、座ろうとすることなく自発的に立ち姿勢を取る。
ハンドラーは、反時計回りに犬のまわりを回る。この間犬は、姿勢を変えたりその場から外れたりしてはならない。
ヒールポジションに戻る際、ハンドラーは前進し続けながら犬にヒーリングを指示する。
犬は、ハンドラーとそろって前進する。

主要要素：立った状態で待つ

注釈：

- ・ハンドラーは、（犬を立たせて待たせた時と犬のまわりを回って戻った時の）どのヒールポジションでも止まってはならない



268. 右回りのスパイラル

ハンドラーと犬は、コーンを右に見て3つのコーンを楕円状に時計回りに回る。続いて、手前の2つのコーンを、右に見て楕円状に時計回りに回る。続いて2つ目のコーンを左に見て、1つ目のコーンを円くもしくは楕円状に時計回りに回る。
チームは、コーンを挟んで分かれて歩いたり、コーンを動かしたりしないこと。

主要要素：指定のパターンでコーンを右回りに回る

注釈：

- このエクササイズは、3つのコーンを用い、並んだコーンの内側の端同士の距離は1.8m~2.4mで置かれる
- このエクササイズは、ジャッジの裁量により、どの向きにでも設置され（例えば、進行方向に対して平行、垂直、または斜め）、1つ目のコーンは、コースマップ上で、またコースではサインを置くことで明確に示されている
- ペーパークリップの形のような動き方となる



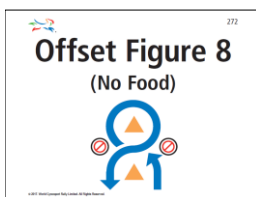
270. 左回りのスパイラル

ハンドラーと犬は、コーンを左に見て3つのコーンを楕円状に反時計回りに回る。続いて、手前の2つのコーンを、左に見て楕円状に反時計回りに回る。続いて2つ目のコーンを右に見て、1つ目のコーンを円くもしくは楕円状に反時計回りに回る。
チームは、コーンを挟んで分かれて歩いたり、コーンを動かしたりしないこと。

主要要素：指定のパターンでコーンを左回りに回る

注釈：

- このエクササイズは、3つのコーンを用い、並んだコーンの内側の端同士の距離は1.8m~2.4mで置かれる
- このエクササイズは、ジャッジの裁量により、どの向きにでも設置され（例えば、進行方向に対して平行、垂直、または斜め）、1つ目のコーンは、コースマップ上で、またコースではサインを置くことで明確に示されている
- ペーパークリップの形のような動き方となる



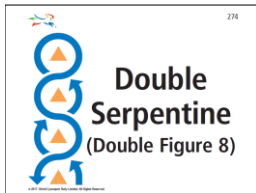
272. オフセットの8の字（誘惑のフードなし）

ハンドラーと犬は、1つ目のコーンを左に見て8の字を始める。
ハンドラーと犬は、2つのフードボウルの間を通過する。この時犬が、歩くべき8の字ラインからフードボウルに向かって外れる（脱線）、またフードボウルに触れたり、フードボウルのおいを嗅ぎに8の字ラインから外れる（注意散漫）、さらにフードボウルを挟んで分かれて歩くことのないこと。
続いて、2つ目のコーンを、脱線したり注意散漫になることなく、右に見たまま周りを回る。
もう一度、脱線したり注意散漫になったり、またフードボウルを挟んで分かれて歩くことなく、2つのフードボウルの間を通過し、1つ目のコーンを左に見ながら歩き続けてこのエクササイズは終了する。

主要要素：指定のパターンでフードボウルとコーンの周りを歩く

注釈：

- 空で蓋のされてない2つの犬用フードボウルと、2つのコーンがひし形状に配置される（前後のコーンの間隔は3m、左右のフードボウルの間隔は1.5m）
- 2つのフードボウルは、小さくても直径15cmあるものとする
- チームは、中心（2つのコーンの間）を2回通過する
- このエクササイズは、ジャッジの裁量により、どの向きにでも設置され（例えば、進行方向に対して平行、垂直、または斜め）、1つ目のコーンは、コースマップ上で、またコースではサインを置くことで明確に示されている



274. 蛇行の往復（2倍の8の字）

ハンドラーと犬は、下記に従って蛇行ヒーリングで往復する。

→ハンドラーと犬は、1つ目のコーンを左に見て、1つ目と2つ目のコーンの間を左に進む

→続いて2つ目と3つ目のコーンの間を右に、さらに3つ目と4つ目のコーンの間を左に進む

→続いて4つ目のコーンを右に見て時計回りに回り、さらに復路で4つ目と3つ目のコーンの間を右に、3つ目と2つ目のコーンの間を左に、2つ目と1つ目のコーンの間を右にと進み、1つ目のコーンを左に見てこのエクササイズは終了する

チームは、コーンを挟んで分かれて歩いたり、コーンを動かしたりしないこと。

主要要素：指定のパターンでコーンの周りを歩く

注釈：

- このエクササイズは、4つのコーンを用い、並んだコーンの内側の端同士の距離は1.8m～2.4mで置かれる

- このエクササイズは、ジャッジの裁量により、どの向きにでも設置され（例えば、進行方向に対して平行、垂直、または斜め）、1つ目のコーンは、コースマップ上で、またコースではサインを置くことで明確に示されている